



心にしみこむやさしい音色(音楽会)

9月から11月の音楽会までの日々は、学校中のどこからか音楽を練習する音色が聴こえてきます。最初のころはたどたどしかったり、不揃いだったり、途中でとまったりの音色です。それが日増しに、どんな曲かわかるようになってきて、心地よい音色に変わってきます。体育館では苦手な子も時間をみつけては、練習にやってきます。5分、10分の貴重な休み時間に、4小節だけのよう短い部分だけでも出来るようになっていきます。それが積み重なり、9月にはバラバラだった音楽が段々と一つ一つの楽器の音色が揃ってきて、素敵なメロディーに仕上がっていきます。なんとすごいことでしょう。モザイク画が完成していくような感じです。

音楽会直前になってきたある日、2人のアコーディオン担当の子が毎日放課後の10分くらい体育館にきて、2人で合わせて演奏するようになりました。その音色は2人だけで完全に演奏会のような素晴らしい音色でした。2人は時には顔を見合わせ、心から音楽を楽しんでいるようでした。その音色はやさしく美しく心にしみこむ音でした。

今年も最後まであきらめずにやりきる努力と、みんなで作り上げた素晴らしい感動の音楽をありがとう。

「みんなで 合わせるって楽しい！」にっこい っぱい 音楽会!(1年生)

1年生にとっては、体育館の大きな舞台の上にあがること、たくさんの人の前で演奏すること、挨拶をすること等、初めてがっぱいの音楽会。

鍵盤ハーモニカ奏「きらきら星」は、はやさやリズムをかえて3回演奏しました。ふけるようになってくると、子どもたちは嬉しくて嬉しくてどんどんはやく演奏したくなりました。「お友だちの音もききながら演奏してみようよ!」「先生の指揮をみながらやってみようよ!」と声をかけるうちにすこしずつあってきました(^▽^)/

合奏「チェッチェコリ」は、みんな大好きな曲でした。まるで、おどりたくなるかのような気持ちで楽しく演奏しましたが、いろんな楽器を合わせることはなかなか難しく苦戦しました。

けれど、練習を重ねていく中で、子どもたちからきこえてきたのは・・・「もっとしたい♪」「みんなで合わせたらすごく楽しい♪」の声。休み時間に友だちと一緒に合わせてみたり、一緒に練習してみたり、「一緒に」を楽しんだ1年生でした。



コロナ禍で、なかなかみんなで一緒にという活動がしにくい今の世の中。けれど、みんなで一緒にするって楽しい、みんなで一緒に音を合わせるって、一緒に音楽を作るって楽しい、そんなすてきな気持ちを感じさせてくれました。みんなで音を合わせて心を合わせてがんばった音楽会でした。

心と音色を合わせて(4年生)

夏休み明けから始まった音楽会の練習、今年度もリコーダー奏と合奏にチャレンジしました。「少年時代」と「千本桜」はどちらも低音から高音への移動が多く難しい曲でしたが、みんなで完成させたいという思いで練習を続けてきました。

その中で、同じ楽器の友だちに「すごい。」と良さを見つけてほめてもらったり、「ここはこうしたら良いんとちがう。」とわからなかった部分にアドバイスもしてもらったりしてうれしかったという声を聞きました。また、「いっしょにがんばろう。」と声をかけてもらって、がんばって練習できたという話も聞き、実際に休み時間は連れ立って体育館や音楽室へ行く姿も数多く見られました。自分の演奏が上手になることだけではなく、仲間の様子を見て助けようとし、ともに成長しながら音楽会を成功させようと努力する4年生の子どもたちの姿に心が温められました。

これからの学校生活の中でも、お互いのがんばりを認め合い、支え合って、様々な課題をクリアしてくれることを期待しています。



